

書評

[評者]

元雄良治

金沢医科大学教授・腫瘍内科学



膵癌診療ポケットガイド

奥坂 拓志, 羽鳥 隆 編

B6 変型判 頁 320 2010 年
定価 5,250 円(本体 5,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00951-5]医学書院刊

研修医が希望する本は、ポケットに入るサイズで、読みやすい、という条件がある。本書はまさにそれを満たしており、本書の読者対象である研修医や膵癌診療に携わっている若手医師には心強い味方である。特に豊富な図や写真は、要点が一目瞭然で理解でき、長い文章よりも効果的である。例えば、103～108 ページの膵癌進展度評価では、「上腸間膜静脈浸潤を伴う膵頭部癌」と「上腸間膜静脈浸潤を伴わない膵頭部癌」の CT 画像を横断像と 3D 像で比較しながら示している。ほかにも、ある所見を伴う例と伴わない例を図示しているので、日頃症例検討会で先輩医師が議論の対象にしている重要所見について、典型的画像を自己学習できる。内視鏡診断のポイントでは、鮮明な写真で内視鏡機器や内視鏡像が呈示されており、非常にインパクトがある。

治療では切除可能例と切除不能例に分け、特に化学療法に関しては、各レジメンの図示、禁忌や休薬・再開の方法・副作用対策(192～194 ページには患者説明用の記載あり)についての具体的な記述が大変参考になる。またフルオロウラシルや S-1 とほかの薬剤の併用療法の中でオキサリプラチンを取り上げ、現時点ではまだ保険適用未承認ではあるが、最新情報を知ることができ、著者同様に読者も臨床試験の結果に注目したくなる内容である。治療効果の判定には 2009 年に改訂された RECIST ガイドライン ver. 1.1 の要点が表 3-17 として掲載されている。

膵癌患者では他の臓器の癌患者と同程度かそれ以上の頻度でうつ病や適応障害などの心の問題が認められるが、本書では治療の中に「心のケア」という項目を設け、膵癌患者の心のケアに必要なこととして、基本的な姿勢・傾聴・共感をはじめ、希望を支えるなどの重要な点が詳しく記載されている。また「膵がん教室の実際」、「患者会 PanCAN 日本支部」、「膵癌啓発パープルリボンキャンペーン」などが紹介されており、膵癌診療の最前線に立つ医師には患者・家族への対応において非常に参考になる。本書の表紙や本文が紫色を基本に統一されているのは、パープルリボンキャンペーンを意識しているのかもしれないが、きれいで落ち着いたデザインであり、目次からすぐ読みたいページを探することができる。さらに引用文献が正確に記載されているので、文献検索・学会準備・論文作成などにも必ず役立つであろう。

本書の随所にちりばめられた 7 つの TOPICS は、「新規抗癌剤へ期待すること」、「免疫治療の現状と展望」、「臨床試験とは」などについて詳しく書かれ、39 の MEMO では、「我が国の宝、膵癌登録」、「CA19-9 の思い出」、「局所評価のみにとらわれるな」など、思わず読んでしまう項目である。以上のようにポケットガイドという名前からは想像できないくらいの濃縮された内容を満載し、膵癌診療に関するさまざまな問いに答えてくれる本書を日々の診療に活用して頂きたい。